

[抄録様式]

公益財団法人8020推進財団

平成29年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

長野市内における障害者福祉施設での口腔ケアの取り組み

2. 申請者名：

公益社団法人 長野市歯科医師会 会長 澤口 通洋

3. 実施組織：

公益社団法人 長野市歯科医師会 地域保健部（在宅・障害者担当）

社会福祉法人 長野市社会事業協会 栗田園

社会福祉法人 長野市社会事業協会 ななせ仲まち園

4. 事業の概要：

長野市内開設の障害者福祉施設・栗田園、およびななせ仲まち園の2施設において、施設を利用する知的障害者に対し歯科健診及び歯科衛生士による口腔ケアを行った。お口の健康を維持するために自身の口腔内の現状を知ってもらい、口腔内診査と口腔衛生指導の他にリーフレット配布を行い、口腔ケアの重要性を啓発した。また本年度は、松本歯科大学歯学部摂食機能リハビリセンター長 齧島弘之教授をお招きし、摂食嚥下機能障害・摂食嚥下リハビリテーションについての講演会を開催した。

5. 事業の内容：

障害者福祉施設・栗田園、およびななせ仲まち園を利用している知的障害者に対し、平成29年11月に口腔内診査と口腔ケアを行った。同年11月から翌30年2月まで毎月一回歯科衛生士が口腔ケアを行い、2月に再度口腔内診査を行った。月一回の口腔ケアでは、一人一人の受診者に適した口腔衛生指導を心がけ、特にブクブクうがいの指導に重点をおいた。受診者のブクブクうがいの様子を見て、再度指導・確認を行った。口腔内診査1回目と2回目の両方の口腔内診査を受けた受診者の結果のうち、歯垢・歯石の付着状態、歯肉の状態について比較検討した。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

両施設での月1回（計4回）の口腔ケアでは、歯科衛生士が受診者に、磨き方、ブクブクうがいの重要性、磨き残しや歯肉炎があるところを丁寧に説明した。口腔ケアの実施により歯肉の炎症は改善傾向を示したが、下顎前歯部の歯肉の改善が課題であると思われる。栗田園では2年以上受診している利用者が多く、口腔ケアの重要性が施設利用者とその家族に浸透し、認知されてきている。さらに、それを継続することの重要性を確信してもらえていることがうかがえた。2年以上口腔ケアを受けている受診者は、歯肉の炎症が少なかった。今年度、初めて受診する新規利用者は3名であった。ななせ仲まち園でも、来年度以降継続できることを期待したい。歯石の付着は、かかりつけ歯科医院が存在しかつ歯石除去の処置を行わないと改善されないため、かかりつけ歯科医院を持つことを今後指導していきたい。

障害のある人たちが豊かな生活をおくり健康度を向上させるためにも、継続的な歯科健診、口腔衛生指導の充実が不可避であると考え。ケアの効果は認められるが、次の段階として施設利用者が歯科処置をスムーズに受けられる体制を整えることが望ましい現状であると考えられる。口腔ケアの有用性が示されたこのような事業を他の同様な施設でも行い、最終的には長野市の健診事業として実施されることを期待する。